

看護職員の残業時間と職務満足度との関係： ワーク・ライフ・バランスの観点から

篠崎 武久^a・川上 淳之^b・橋本 美穂^c・小村 由香^d・脇坂 明^e

^a 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 社会文化領域 (shinozakiATwaseda.jp)

^b 帝京大学 経済学部 経済学科

^c 公益社団法人 日本看護協会

^d 公益社団法人 日本看護協会

^e 学習院大学 経済学部 経済学科

要旨

本稿では、医療施設側のデータと看護職員側のデータを結合したデータセットを用いて、看護職員の残業時間と職務満足度との関係を明らかにした。その際、医療施設側によるワーク・ライフ・バランス（WLB）への取り組みの程度に注目し、WLBへの取り組みが看護職員の職務満足度にどのように影響するか、また、医療施設側がWLBへ取り組むことにより、看護職員の残業時間と職務満足度との関係がどのように変化するのかを検証した。

看護職員の残業時間と職務満足度との間には負の関係が観察された。また、子どもがいる女性など、WLBに関して困難を抱えていると推察される層において、残業時間と職務満足度との負の関係はより強く観察された。

医療施設側によるWLBへの取り組みは、職務満足度を向上させる効果を持つ。ただし、WLBへの取り組みが中程度の場合は、職務満足度はむしろ低めに計測されるという結果が示された。また、医療施設側がWLBに取り組むことにより、残業が職務満足度に与える負の効果が軽減されることを期待したが、本稿の分析ではそのような効果を確認することはできなかった。

キーワード：ワーク・ライフ・バランス、職務満足度、看護師

JEL Classification: J28, J44, J81